

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑥まちづくり等分野 (3/3)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
持続可能な中山間地域を目指す自立的地域コミュニティ創造特区 (新潟県長岡市)	3.9	3.9 進捗度 ・住民基本台帳人口 -272% ・市政への満足度 (バス・電車など公共交通機関) 《定性的評価》 ・各地域で民間の路線バスが運行されていないエリアにおいて、民間事業者でも行政でもない『自立経営型NPO法人』が行う生活交通事業により運行サービスが受けられる市民の割合 100%	3.7 規制の特例措置 ・生活交通事業 (自家用マイクロバス有償貸渡) ・過疎地有償運送の旅客の範囲の緩和 地域独自の取組 ・公共交通等確保維持事業(財政支援) ・山の暮らし再生事業(財政支援) ・長岡市中山間地域自立促進協議会活動支援先進地視察(その他)	4	<p>・各地区とも人口減少傾向の歯止めに関しては、厳しい状況が否めない。人口に関しては急増させることは困難であるため、今後も緩やかな減少傾向にしてゆく努力とともに、外部の協力を得て地域振興を果たしてゆくことが期待される。</p> <p>・人口減少傾向が加速している地区もある中、生活交通サービスを継続している点を高く評価する。</p> <p>・コミュニティ交通の面では、地域内で協議され、限られたリソースのなかで対応しているであろうが減便傾向が気にかかる。今後も、住民の利便性の確保と利用促進に努める必要がある。</p> <p>・評価指標(2-ア)については、該当年度のアンケート結果がないため、現在のサービス内容の満足度を判断できないが、満足度向上よりも事業継続体制の構築がまずは重要。</p> <p>・バス便が大幅に減少した地域もみられ、さらに新型コロナウイルスの影響で、視察やグリーンツーリズム等の交流人口増加が難しくなる可能性がある。そのような状況下でも持続可能なサービス体制の構築に向けて検討を続けていただきたい。</p> <p>・評価指標(3)は、availability(運行サービスの可用性)を指標としているが、市民の運行サービスの利用実績と関連付ける必要がある。NPOとの連携が奏功している点が評価できる。</p>